

基本姿勢

全ての経営計画、事業戦略の策定・遂行に先立って、労金の掲げる理念を深く再認識し、その目的を遂行するために全ての役職員が不断の努力を重ね、率先具現化することを使命とする。

長年に亘る会員依存による安定成長の中で微温的庫風が充満し、自己管理・危機管理意識が欠如しがちとなった企業風土を刷新し、会員、利用者に信頼される金融機関として法令遵守の徹底と管理態勢の強化を図りながら、事業の社会的価値を高めて金庫の社会的責任を果たす。

基調

1. 勤労者福祉金融機関としての存在感を確かなものとするため、会員との連携を機軸に、勤労者の期待に応え、生涯のパートナーとして信頼され、選ばれる独自性のある事業を展開していくこと。
2. 金庫の経営水準のレベルアップを通じた格差縮小の取り組みを本格化し、業態全体の持続可能な経営基盤を作りあげること。
3. 緊急時の業態セーフティネット構築とともに業態の総合力を発揮する上で最もふさわしい組織体制はどうあるべきかの議論とそのための条件整備を可能な限り進めること。

実施すべき重要課題と施策

会員・勤労者の期待に応えるために

サービス業へと進化し顧客志向を徹底するため、勤労者一人一人と向き合った営業を実践
 会員・推進機構との連携による取引基盤の拡大と新規加入会員の拡大
 団塊世代をはじめ勤労者の生涯生活の変化に対応した金融機能の提供と仕組み作り
 ナショナルセンター、全労済等の諸団体との連携による勤労者ネットワーク網の構築
 利用しやすくわかりやすい商品・チャネル・サービスの充実と融資手続の改善
 マーケティング能力の向上

持続可能となる経営基盤の強化のために

法令等遵守・企業統治・顧客保護重視の経営組織・風土の確立
 勤労者セーフティネット・NPO 施策・CSR 施策等（グッドマナー）推進と労金ブランドの確立
 融資増強・コスト削減・業務効率化・リスク管理を柱にした収益力強化
 危機管理対応能力の強化と業態セーフティネット整備の完了
 勤労者福祉金融機関にふさわしい役職員の意識改革と資質向上
 職員の勤労意欲の醸成と自己実現をサポートする人事諸制度の策定と充実

13 金庫体制における経営基盤の強化を基礎に、激変する情勢変化への対応と業態の総合力を発揮するための最強かつ最適な組織体制のあり方を検討し、「日本労金」構想を明らかにする

「日本労金」構想の議論に向けて（視点）

《状況認識》

中央機関に権限が集中化する全国統合のあり方に慎重論はあるが、議論及び検討することへの反対の意見はない。13 金庫体制は過渡的体制であり、会員、勤労者の財産を発展させるための最善策を検討する。

《統合の前提条件》

各金庫が経営格差の状況認識を深め、統合の前提条件とするような一定水準の目標を設定し努力していくことが不可欠。

《構想の検討要素》

金庫が直面している経営課題の解決策を導きだす現実的役割と労金業態の将来像を指し示す新しいビジョンの役割を担うものとして作成する。

《スケジュール》

